

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第2部門第6区分
 【発行日】平成29年2月9日(2017.2.9)

【公表番号】特表2012-520802(P2012-520802A)
 【公表日】平成24年9月10日(2012.9.10)
 【年通号数】公開・登録公報2012-036
 【出願番号】特願2012-500113(P2012-500113)
 【国際特許分類】

B 6 5 D 83/04 (2006.01)
B 3 2 B 15/085 (2006.01)
B 6 5 D 65/40 (2006.01)
B 6 5 D 81/24 (2006.01)
B 6 5 D 75/36 (2006.01)
A 6 1 J 1/03 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 83/04 D
 B 3 2 B 15/08 1 0 3 A
 B 6 5 D 65/40 D
 B 6 5 D 81/24 E
 B 6 5 D 75/36
 A 6 1 J 1/00 3 7 0 B

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成28年12月14日(2016.12.14)

【誤訳訂正1】
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】請求項1
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】

【請求項1】

感湿性の製品を包装するためのプリスターパック用プッシュスルーホイルとしてのカバーホイルであって、前記カバーホイルは、水蒸気及び気体の透過に対するバリア層としてのアルミニウムホイルと、プリスター基底部品に対する密封を行うための密封層とを有する、前記カバーホイルにおいて、湿気を吸収する乾燥剤を含有するプラスチック材料層が、前記アルミニウムホイルの前記密封層が設けられた側の面に配置され、前記カバーホイルのプッシュスルー性能が前記プラスチック材料層の脆性によって保持される範囲内で、前記プラスチック材料層の単位面積当たりの重量を 30 g/m^2 以上にしたことを特徴とする、カバーホイル。

【誤訳訂正2】
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】請求項2
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【請求項2】

請求項1に記載されたカバーホイルにおいて、乾燥剤を含有する前記プラスチック材料層は、前記乾燥剤として、酸化カルシウム(CaO)を含有し、特に、0.5乃至9.5重量%のCaO含有し、好ましくは、10乃至65重量%のCaOを有することを特徴とする、前記カバーホイル。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

この目的は、本発明によれば、水蒸気及び気体の透過に対するバリア層としてのアルミニウムホイルと、プリスター基底部品に対して密封するための密封層と、密封層を備えたアルミニウムホイルの側の面に配置され、かつ、湿気を吸収する乾燥剤を含有する、プラスチック層とを有する、感湿性の製品を包装するためのプリスターパック用プッシュスルーホイルとしてのカバーホイルにおいて、このカバーホイルのプッシュスルー性能が前記プラスチック材料層の脆性によって保持される範囲内で、前記プラスチック材料層の単位面積当たりの重量を 30 g/m^2 以上にしたことを特徴とする、カバーホイルによって達成される。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

この内側層は、すなわち、プリスター基底部品に対して密封するように設けられたアルミニウムホイルの側の面に配置され、かつ、乾燥剤を含有する、プラスチック材料層は、このホイルのプッシュスルー性能を減少させることなく、従来技術によるプッシュスルーホイルに用いられている密封可能な内側層と比較して、驚くべきことに、二倍乃至三倍の厚さを有することができることを見出された。この理由は、乾燥剤を保持する層が、保持しない層に比べて、はるかに高い脆性を有するためである。かかる認識によって、十分な量の乾燥剤を含有し、したがって、経済的に理にかなった量の乾燥剤を含有する、本発明によるカバーホイルの開発の道筋が、初めて明らかになったのである。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0019

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0019】

このアルミニウムホイルの密封層を設けた側の面を接着促進剤によって被覆することが可能であり、特に、水ベースのプライマー又は溶剤ベースのプライマーによって、又は、高分子接着促進剤によって、被覆することができる。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

測定値は、
ラッカー、1乃至 2 g/m^2
アルミニウムホイル、 $20\text{ }\mu\text{m}$ 、硬質
プライマー、 1 g/m^2
LDPE、密封層として 15 g/m^2
という層構成を有する基準となるプッシュスルーホイルと比較して、乾燥剤を含有するプラスチック材料層では、単位面積当たりの重量が約 38 g/m^2 に至るまで、プッシュスルー性能の悪化が確認されないことを示している。